

一本一本の積み重ねが地球を救う

植林活動を通して環境問題に取組、木の豊かな可能性を未来に繋げ、社会に貢献したいとの思いで植林事業を展開している株式会社ゼストシステム（北海道旭川市、安井文期代表）社員ら二十三名が一月九日、村赤間運動公園で植林活動を行いました。

ゼストシステムは環境問題や循環型社会など、地球規模な課題に直面した時に、会社として何ができるかを考え、木材を使用するものとして、木を育てることで一つの循環ができるのではないかとというアイデアで、二年前から植樹事業に取り組んでいます。

ゼストシステムはこれまでに旭川を中心に一万本以上の木を植えてきました。今回恩納村での植樹は、北海道以外では初めての植樹活動となる。



激励に駆けつけた志喜屋文康村長は「育った暁には是非再び恩納村にいらして、桜を楽しんでもらいたいと思います」とあいさつし、安井代表は「一中小企業としてできる事は小さいかもしれないが、その積み重ねが重要であると思います。一本一本、心を込めて植えていきます。」と話しました。

この日社員らは、赤間運動公園内の百二十二本の桜をはじめ、村内で合わせて二百五十本ほどの桜を植え付けました。

▲桜の植樹に取り組むゼストシステム社員ら